

リスクを通して国・行政のあり方を考えると？

リスクは白か黒かの二元論ではない

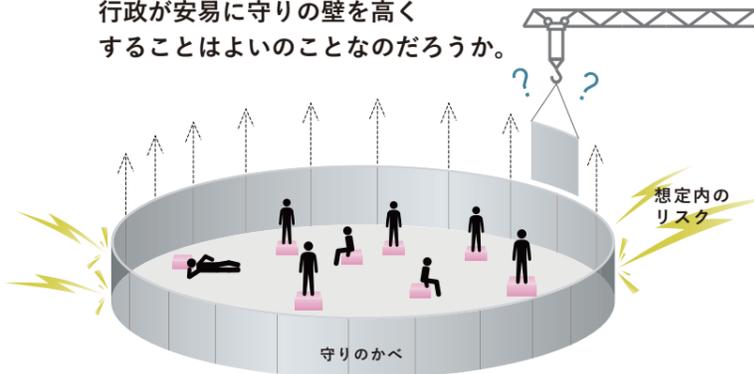
安全だと思っている中にリスクは潜んでいる。
リスクは白か黒かで言えるほど単純ではない。



リスクは白か黒ではない。小さな段差で転ぶことも、大きな段差で転ばないこともある。リスクは時と人によって異なり、白黒つけられない。一人一人が白に近いグレーを判断する姿勢が重要。

「完璧な守り」の限界

行政が安易に守りの壁を高くすることはよいことなのだろうか。



行政は個人のリスクを守るための「かべ」を作るが、壁を高めていくほど、個人のリスク対応力が下がる。また、その壁は高くなるほどコストが高くなっていく。

「完璧な守り」から「レジリエンスへ」

想定外の困難な状況においても柔軟に適応し対応する能力、「レジリエンス」が必要。

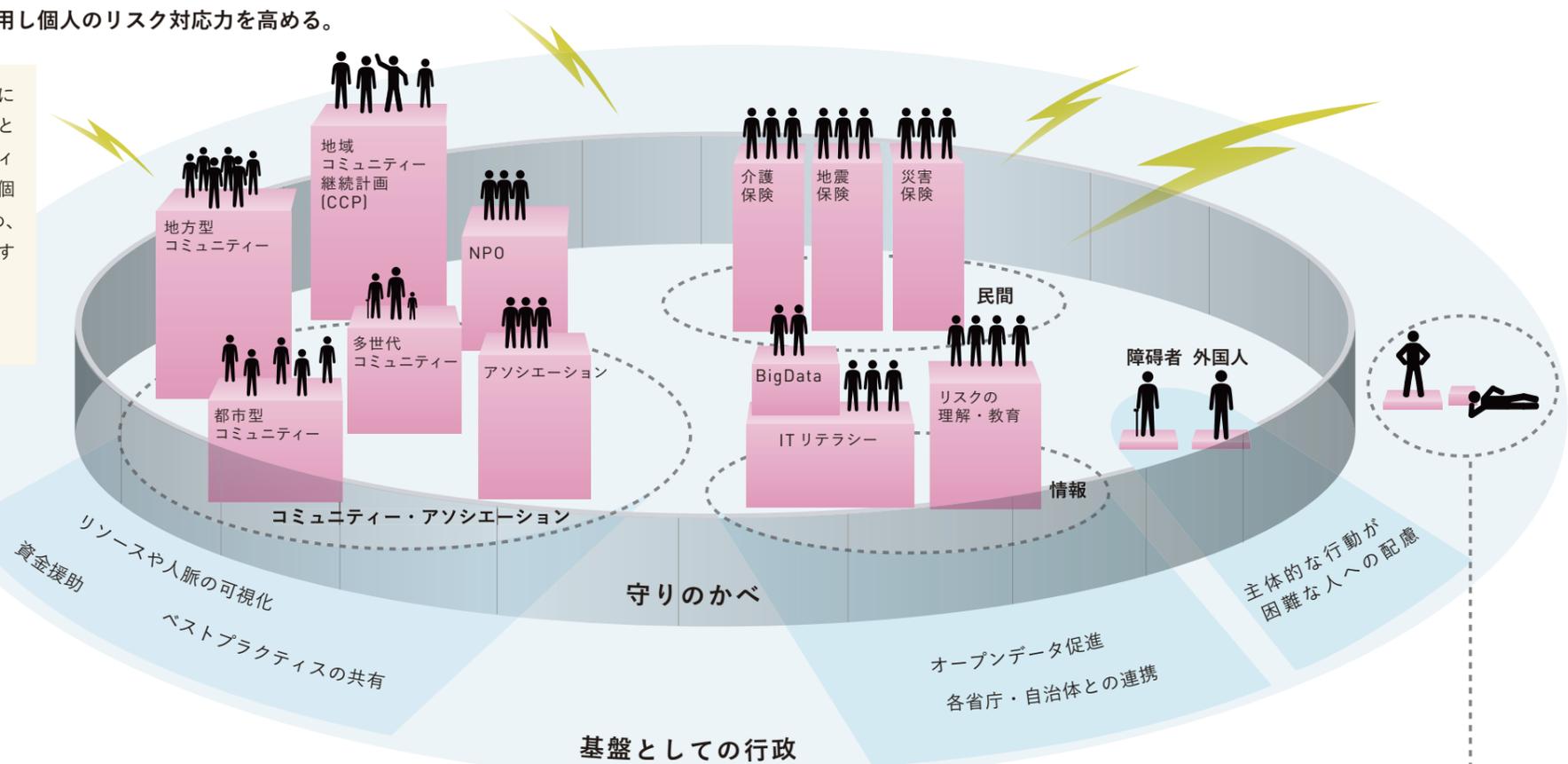


完璧には予測できない前提で危機にどう対処するかという考え方に立ち、一人一人がリスクを取り、対応力を高めることが大事。

レジリエンスを高めるために

コミュニティやリスク教育、保険など
様々な手段や機会を活用し個人のリスク対応力を高める。

マクロレベルのリスクに関しては行政が守るとともに、地域コミュニティや教育などにより、個人のリスク対応力を高め、想定外のリスクに対処する必要がある。



？ 自らの判断で守りのかべに入らない人に行政はどう対処すべきか

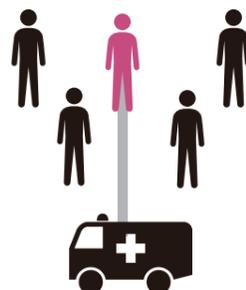
行政に残された課題

？ 行政は被害の連鎖を断ち切るために不完全情報の中で人々の権利に立ち入ることができるのか。



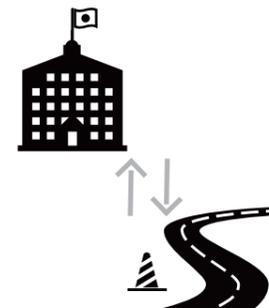
例えば江戸時代の火消し。この家を壊さないと火事の拡大を防げないという判断を風向きから考えて、不完全な情報の中でおこなわなければいけない。

？ 行政は限られたリソースを活かすために優先順位を判断しなければいけないが、事前の社会的合意を形成できるのか。



例えばトリアージ。災害医療の現場において、命が助かる人を医師が選別し優先的に措置する。では、行政においてこのような優先順位について、事前の社会的合意をどう形成するのだろうか。

？ 司令塔を作れば迅速な対応はできるがすべての指示をするとうまく機能しない。現場に任せることのバランスはどうとるべきか。



例えば 3.11。高速道路が早急に開通する等は現場に任せてうまくいった。一方で現場に任せることで全てがうまくいくものでもない。